みのEDO
MINO
東京⇄笠原情報誌 MAIL版

発行：多治見市美濃焼タイル振興協議会
TEL 0572-43-2141
発信：多治見市・笠原町東京情報局
tilesea.ms@gmail.com

NO 210
2019.2.9

INAXライブミュージアム

和製マジョリカタイル
―憧れの連鎖

開催中

INAXライブミュージアム（愛知県常滑市）「土・どろんこ館」企画展示室では、和製マジョリカタイルの展示を開催中（2019年4月9日（火）まで）。これまであまり研究がなされていなかったマジョリカタイル。その歴史から魅力まで幅広く網羅した内容となっている。

❶ 多色草花文チューブライニングタイル、淡陶製
❷ 多色葉文チューブライニングタイル、淡陶製
❸ 多色花文チューブライニングタイル、淡陶製
❹ 多色草花文チューブライニングタイル、佐治タイル製
❺ 多色薔薇文レリーフタイル、製造会社不詳
❻ 多色孔雀文レリーフタイル、淡陶製

❷：所蔵は常滑市、収蔵はINAXライブミュージアム。
❸：株式会社Danto Tile蔵
上記以外はINAXライブミュージアム蔵。

「憧れ」が生み出したタイル

展示会場入り口からは黒を基調とした空間に花や幾何学模様など様々な意匠の色鮮やかなタイルが輝くのが見え、思わず中へと引き寄せられる。

「和製マジョリカタイル」とは、主に大正初めから昭和10年代に日本でつくられた多彩色のレリーフタイルのこと。明治時代、洋館で見たイギリスのヴィクトリアンタイルに憧れ、日本の技術者たちが研究を重ねて製作。最盛期には国内のみならず、台湾など東南アジア、遠くはアフリカにまで輸出された。

展示のキーワードはサブタイトルにもある「憧れ」。まずは今の日本でマジョリカタイルが見られる貴重な場所を紹介。その美しさに魅了された後、歴史がひもとかれていく構成となっている。

＊歴史的建造物の修復・保存のためのタイル復元のほか、建築家やアーティストとのコラボレーションによる特注タイルの製作も行なう工房。

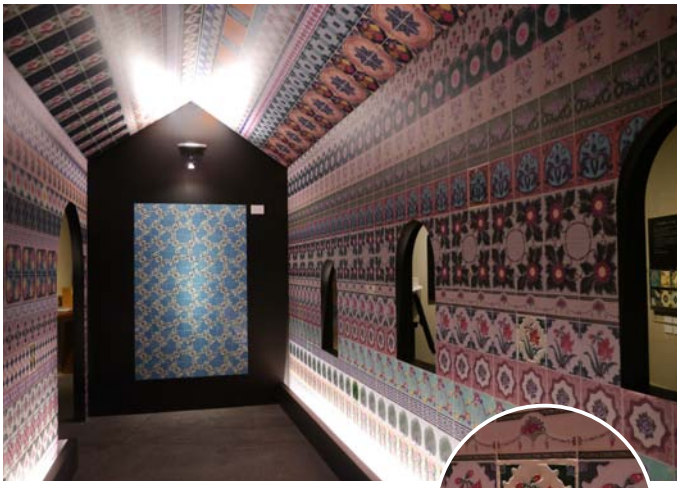
このミュージアムならではのユニークな企画が、併設する「LIXIL ものづくり工房」*による「タチアオイ」柄のタイルの復元。色の組み合わせを変えて20枚を製作、一つの柄が色によって多様な表情を見せる。

展示の最後にはマジョリカタイルの回廊が登場。タイルに囲まれ、当時の人々の「憧れ」に思いを馳せた。同じ敷地内にある「世界のタイル博物館」にもマジョリカタイルの常設展示があり、併せて訪れたい。

展示会場入り口。

黒を基調とした展示会場。中央に設置されているタイル回廊を囲む形の展示順路となっている。

復元した「タチアオイ」柄のマジョリカタイル。予約販売中。

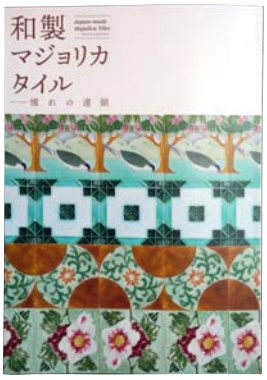


マジョリカタイルのプリントを張った回廊。ところどころに本物のタイルが埋め込まれており、探すのも楽しい。すべて手で触れることができる。

最初はヴィクトリアンタイルの模倣が多かったが、それ以外のデザインも見られるように。多色チューブライニングタイル（草木と鳥）、不二見焼製、INAXライブミュージアム蔵。

撮影：梶原敏英

回廊の奥に張られたタイル（右）は、多色草花文チューブライニングタイル（上）を、色を変えて復元したもの。77枚のタイルは予約販売中。



展示内容を掘り下げた冊子も発売中！

「和製マジョリカタイル
–憧れの連鎖」（LIXIL出版）

タイルのミュージアムめぐりプレゼントキャンペーン開催中

期間中に、INAXライブミュージアムと多治見市モザイクタイルミュージアムの両館を観覧しスタンプを集めた方に、もれなくプレゼントを贈呈中。

2月28日（木）まで

プレゼントは3種類から選択。
LIXIL2019タイルカレンダー／
マジョリカタイルシール／
オリジナルポストカード

INAXライブミュージアム

場所	愛知県常滑市奥栄町1-130
開館時間	10:00〜17:00（最終入館16:30）
休館日	毎週水曜日（祝日の場合は開館）
web	http://www.livingculture.lixil/ilm/

講演会 世界へ羽ばたいたマジョリカタイルと装飾タイル最新事情

講師	加藤郁美（月兔社）、 平田雅利（株式会社平田タイル取締役会長）
日時	2019年2月23日（土）13:30〜15:00

ワークショップ つながるタイル
–みんなタイルでつながろう–

日時	2019年3月24日（日）13:30〜15:00

＊いずれも要予約。詳細は左記webサイト参照のこと。

マジョリカタイルに出合える場所

展示でも紹介されていた「さらさ西陣」など、3カ所を訪ねました。

さらさ西陣　京都市北区

「さらさ西陣」は元銭湯の建物をリノベーションし、2000年にオープンしたカフェ。以来、言わずと知れた人気の観光スポットとなっている。立派な唐破風のついた木造二階建ての建物は、和の建築の風格を感じさせるが、腰壁に張られたマジョリカタイルが独特の存在感を発揮している。天井が高く、壁にマジョリカタイルがびっしりと張られた空間は圧巻。異国情緒も感じさせる。

銭湯の湯気抜きがそのまま明かり取りになっている。

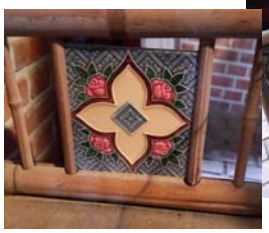
使われたマジョリカタイルの種類は10種類以上。

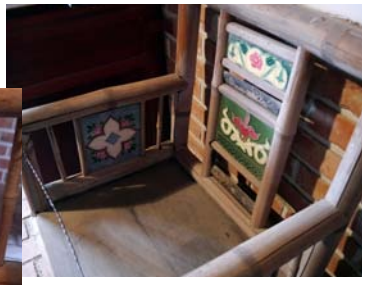
腰壁にもマジョリカタイルが張られている。

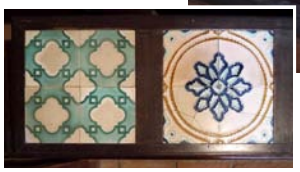
所在地：京都市北区紫野東藤ノ森町11-1
地下鉄烏丸線鞍馬口駅から地下鉄烏丸線鞍馬口駅から鞍馬口通りを徒歩約15分。

野外民族博物館 リトルワールド　愛知県犬山市

世界の民家を移築・復元している野外博物館・リトルワールド。ここで予期せぬマジョリカタイルとの出合いがあった。広い敷地を歩き尽くしてたどり着いた台湾の農家は、1917年に建てられた家をモデルとし、1950年代頃の生活を復元。部屋に備えられた木製ベッドの踏み台にはめこまれているのは5枚のマジョリカタイル。竹製の椅子には背板と肘かけの下にタイルが。日本にはないタイル使いが新鮮。







こげ茶色の家具に
タイルの色彩が映える。

所在地：愛知県犬山市今井成沢90-48
名鉄線犬山駅よりバスで約20分。

茶嘉葉　東京都杉並区

台湾茶とともにタイルを楽しむ

「茶嘉葉」（チャカバ）は、昨年2018年10月にオープンした台湾茶カフェ。古民家風の落ち着いた空間には、古いミシンを利用したテーブルが置かれ、台湾茶とドライフルーツのセットが楽しめる。

店内の棚には台湾茶や台湾雑貨とともに、復刻タイルやピンバッジ、コンパクトにワッペンなど様々なマジョリカタイルグッズが並ぶ。

台湾では日本統治時代下の1915年〜1935年くらいまでの間、裕福な家やお寺の外壁にマジョリカタイルが多く使われた。「和製マジョリカタイル展」では、2016年に設立された「台湾花磚博物館」（マジョリカタイル博物館）を紹介しており、「茶嘉葉」ではその博物館のグッズを扱っている。

「台湾では花タイルと呼ばれています」と教えてくれたのは台湾出身の店主・杉本敏嘉さん。お店の外壁にマジョリカタイルを張りたいと思い、インターネット等で調べる中で博物館の存在を知り、館長の徐さんに連絡。それを機に交流が始まり、グッズを扱うことになったという。店内には台湾で発行されたマジョリカタイルの本も常備。タイルが張られた、れんが造の建物はとても華やかで、実際に見に台湾を訪れたくなる。

モザイクタイルの池をDIY

店内は夫のクニさんとともに、元洋食屋だった空間を4カ月かけてリノベーション。「昭和っぽいレトロな雰囲気と台湾らしさを合わせ持った空間にしたかったんです」とクニさん。

注目は奥の小上がりのスペース。玉石タイルの池がきらきらと光り、金魚タイルが泳ぐ。敏嘉さんがタイルを一枚一枚張り、4日間かけて完成させた力作だ。タイルは多治見から取り寄せた。

「台湾の家ではモザイクタイルが今も当たり前に使われているんですよ」と敏嘉さんから聞くと、旅心が一層かきたてられた。

1ページに掲載したタイルと同じ柄の色違いのタイルピンバッジ。デザインについて「天使のような赤ちゃんが生涯優しく暖かな世界で過ごしていくことを象徴」と解説されている。

店主の杉本敏嘉さんとクニさん。壁の色はうすいブルー。台湾ではよく使われる色なのだそう。

店内でいただける台湾茶は8種類。販売もしている。セットのドライフルーツは8種類から3種を選べる。

サイズは10センチ角。

玉石タイルの池には金魚タイルが泳ぐ。

外壁は、今はシールで代用。シールは台湾のメーカーの商品。台湾ではマジョリカタイル柄が市民権を得ているようだ。

所在地：東京都杉並区成田東4-35-27
JR阿佐ケ谷駅より徒歩15分、地下鉄南阿佐ケ谷駅より徒歩7分。

タイルのあるお店にいこう

浅草編 1

誰もがくつろげ交流できる空間に

BUNKA HOSTEL TOKYO／居酒屋ブンカ（東京都台東区浅草）

15ミリ角のグレーと白の2色のモザイクタイルで、円を表現。
たくさんのタイルが張られていることに、外国人客よりむしろ日本人のほうが驚くそう。

下町らしい雰囲気が外国人観光客に人気の東京・浅草。昔ながらの商店街に新しい店も続々と誕生。内外装にタイルが使われた店にもよく出合う。
2015年12月にオープンしたBUNKA HOSTEL TOKYO（ブンカ ホステル トーキョー）もそのひとつ。1階に併設する居酒屋ブンカは、モザイクタイルによって壁と床がデザインされている。この施設の企画・設計を担当した菓子麻奈美さんに、タイルを用いた空間づくりについて聞いた。

菓子麻奈美さん
UDS株式会社に所属し設計・インテリアを担当。東京芸術大学大学院美術研究科建築専攻修了。

一菓子さんの所属するUDS株式会社が、浅草の築30年以上になるビルの再利用について、企画から設計・運営までの依頼を受けたのは2014年のこと。

このビルは、元は1階がパチンコ店、2階以上は従業員の宿泊施設でしたが、閉店したままになっていました。この辺りは「すしや通り」とよばれ、お寿司屋さんが多かったのですが、シャッター商店街のようになりかけているところでした。町内会やビルの所有者の方からは、「浅草のまちに寄与するような場所にしたい」という要望がありました。

ビルの延べ床面積は約997平米。業態から検討をはじめました。商業ビルでは町に寄与しないし、ホテルには客室数が足りません。一方、浅草は外国人観光客が増加し、宿泊施設が足りていない状況がありました。そこでホテルは無理でも、水周りが共有でベッドを提供する、ホステルという業態を考えました。1階を店舗にすることで、まちに寄与するという条件も果たせると思いました。

2種のモザイクタイルで土間のような空間を演出

1階は宿泊客だけでなく、観光客、まちの方が気軽に利用できるように居酒屋に。入りやすさを重視し、外部とつながった、土間のような空間をつくろうと思いました。とはいえ宿泊施設であることが前提にあるので、「清潔で気持ちがいい」ということは担保したい。「それを実現する素材は何だろう」と考え、タイルを思いつきました。タイルは外でも使え、汚れたときは水をまいて掃除すれば、清潔を保てます。

ホステルのレセプションと居酒屋の注文カウンターは一続きになっている。

また、にぎやかで楽しそうな雰囲気を表現するために、グラフィックを使いたかった。ただ、事業的なことですが、1ベッド3000円という業態では内装にそれほど投資はできません。たとえば床をモルタルにしてアートや絵を入れると、予算をプラスしていくことになる。素材にモザイクタイルを使ってグラフィックを表現すればコスト的なハードルも越えられます。「国産タイルは耐久性がある」という利点もあり、「これしかないね」と決まりました。

SAKEと書かれた大きな提灯が目印。全国各地の日本酒を提供。利き酒のイベントも開催。昼間はカフェとしても営業。

下町の文化である銭湯をイメージ

円を用いた内装やロゴマークなどのグラフィックは、アーティストの高橋理子（ひろこ）さんに依頼しました。円と直線のみで構成された図柄が特徴的で、主に着物を表現媒体とされています。日本の伝統文化に関わる活動と大胆でミニマムな表現が、今回のコンセプトにもマッチしています。

ロゴマークもタイルをモチーフにしています。一個一個のタイルがここを訪れる人たち。旅行者の方もいるし、地元の方もいる。たくさんの人が集まってひとつの円をつくっています。この円は地球の地軸分傾いていて、「地球のどこからでも来てください」というメッセージを込めています。

じつは裏コンセプトもあるんです。浅草、下町の文化に銭湯があります。ブンカホステルのすぐ近くにも蛇骨湯というお風呂屋さんがあります。タイルの湯船に入って、老若男女、日本人も外国人も気持ちよく過ごせる、そんな空間をめざしたいね、という思いを企画設計に携わったみんなで共有していました。

現代の日本らしさを伝えたい

「ブンカ」いう名前がついているように、海外の方に日本の文化を感じてもらい、持ち帰ってもらうというのがコンセプトです。かといって、「赤提灯」「サムライ」など、「和」を前面に押し出さないようにしています。たとえば「酒」と漢字で書いた赤提灯をそのまま使うのではなく、本物の素材や職人技を使い、現代的な、いまの日本の人たちがいいなと思うデザインで表現しました。お店にある「SAKE」と書いた提灯は水府提灯といい、水戸でつくったものです。

オープンして3年になりますが、ホステルはおかげさまで高稼働。イベントもよく開催しています。
閉まっていた近くの店舗が居酒屋になるなど、周辺に新しくお店ができてきました。まちの活気づけにつながる一石を投じられたかなと思っています。

壁面に銭湯の洗い場などでよく使われる照明がつく。

©Shiori Kawamoto

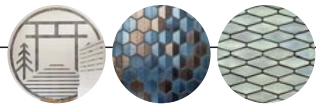
「すしや通り」にあり、浅草寺まで徒歩5分程度。
東京都台東区浅草1-13-5

ビルの外壁は元々タイル張り。テラコッタ調の色だったのをグレーに塗装した。

タイルをモチーフにしたロゴマーク。
©Shiori Kawamoto

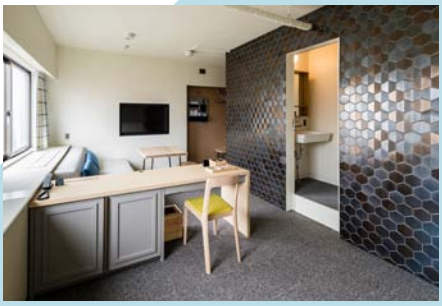
UDS株式会社が企画設計を担当

タイルを使用した商業施設



「タイルは個人的に好きでよく使います」と菓子さん。
タイルを使用した3つの案件を紹介してもらいました。

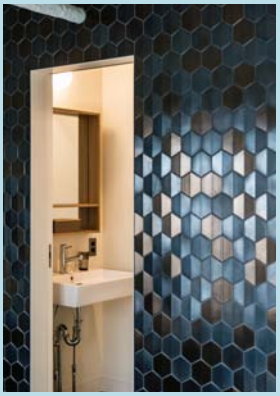
タイルは光を当てると奥行きが出ますよね、
マットな表現もありますし。
コストをかけられる業態ではオリジナルのタイルを製作し、
そうでない場合は既成のタイルを使い、
グラフィックを表現するなどします。
（菓子さん）

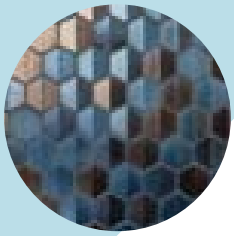


ホテル アンテルーム 京都

京都市南区

築23年の学生寮をコンバージョンし、2011年4月にオープン。客室内の、バスルームとの仕切りとなる壁面にタイルを使用。「既製品のタイルでインパクトのある壁をつくりました」





あしのこ茶屋

神奈川県足柄下郡箱根町

土産物店をリニューアルし、2018年4月にオープン。
近くの箱根神社の鳥居の色と、神社の木々の緑色をキーカーラに設定。外とシームレスになるようにグリーンの床タイルを使用。2階の食事処の壁にモザイクタイルでシンボルマークを表現。外にはタイル張りのベンチを設置。

ホテル カンラ 京都

京都市下京区

フロントの背面に、清水焼で製作したオリジナルのタイルを使用。「この場所にはよくアートを飾ると思いますが、タイルでアートウォールにしました」